

No.24

博物館で学ぶ 自然と人々の暮らしの SDGs (B)

大町山岳博物館

大町山岳博物館は、北アルプスの山岳環境と自然を見つめ直し、地域の文化を求める拠点として、「岳のまち・大町」にふさわしい日本初の「山岳」をテーマとする博物館です。昭和26年(1951年)11月1日に誕生、現在まで70年余りの歴史を誇る総合博物館です。

「北アルプスの自然と人」とする、常設展示は3階に北アルプスを一望する展望ラウンジが、2階には当地域の地質の特徴を物語る北アルプスの成り立ちやフォッサマグナの展示、北アルプスに生息する動植物とその生活史を学ぶことができる展示があります。1階では人が北アルプスなどの山々とどのような関わりをもって暮らしてきたのかを様々な歴史・民俗資料、山岳資料などを展示し紹介しています。特別展示室では、様々な企画展を開催するとともに、冬期間などに「山と美術」と題した、山岳風景画の絵画作品などをご覧いただけます。



実施可能時期 年間(月曜休館、要問合せ)

所要時間 1時間程度

対象 小学生・中学生・高校生

対応可能人員 40名程度(要相談)

① プログラムの流れ

博物館3階展望ラウンジ(大町市・山岳などの紹介)

- 2階常設展示室(気候・山の成り立ち・山と生きもの)
- 1階常設展示室(山と人の歴史・北アルプスの近代登山を中心とした山と人のかかわり)
- 付属園(飼育動物の見学)

※上記が一般的な順路ですが、クラスが複数になった場合には、ローテーションで巡回します。



Learning Point

探究学習のポイント

2階「山と生きもの」の内容1例

事前学習

課題の明確化

高山に棲むニホンライチョウの数がこの数十年にわたって減少しています。何が原因で数が減っているのか、その答えは一つではないかもしれません。自分なりに原因を考えてみましょう。また博物館は減少を食い止めるために、ある取り組みを行っています。どのような方法があるか考えてみましょう。

現地学習

答えを導く

博物館の剥製や付属園で飼育している生きたライチョウを観察しながら、高山での生活について学びます。ニホンライチョウの生息環境をとりまく変化や温暖化による影響など、実際に山でどのような変化が起き、ライチョウの現状はどのような状況に置かれているのかを学んだうえで、博物館では減少をくいとめるためにどの様な取り組みをしているのか学びます。

事後学習

掘り下げる

将来温暖化が進めば高山の気候はどのように変化していくのかを想像しつつ、ライチョウの減少を食い止め、高山をふくめた持続可能な環境を維持し、人々が暮らし続けるためにはどうすればよいのかまとめてみてください。



博物館で学ぶ 自然と人々の暮らしのSDGs (B)

事前学習

課題の明確化

高山に棲むニホンライチョウの数がこの数十年にわたって減少しています。何が原因で数が減っているのか、その答えは一つではないかもしれません。自分なりに原因を考えてみましょう。また博物館は減少を食い止めるために、ある取り組みを行っています。どのような方法があるか考えてみましょう。

現地学習

答えを導く

博物館の剥製や付属園で飼育している生きたライチョウを観察しながら、高山での生活について学びます。ニホンライチョウの生息環境をとりまく変化や温暖化による影響など、実際に山でどのような変化がおき、ライチョウの現状はどのような状況に置かれているのかを学んだうえで、博物館では減少をくいとめるためにどのような取り組みをしているのか学びます。

事後学習

掘り下げる

将来温暖化が進めば高山の気候はどのように変化していくのかを想像しつつ、ライチョウの減少を食い止め、高山をふくめた持続可能な環境を維持し、人々が暮らし続けるためにはどうすればよいのかまとめてみてください。